

令和6年度

授業計画書

学科・学年	鍼灸学科 1年	科目名	患者心理学(コミュニケーション学)	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	谷 佳成恵	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 患者心理について理解し、各疾患における特徴の概要を述べることができる。 2 医療者-患者関係について理解し、効果的なコミュニケーション技法を修得する。 3 生物心理社会的モデルに基づいて健康支援を展開できる。			評価方法			
授業概要	患者本位の全人的な医療を実践するという心を持ち、それが態度に表れ、患者と共感的態度で接することができる医療者を育成するための患者心理学の考え方と方法について学ぶ			期末試験 80% 小レポート 20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	心理系大学院入試&臨床心理士試験のための心理学標準テキスト'23~'24年版	使用器材	液晶プロジェクター、ビデオ				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	行動変容(1):代表的な行動変容の理論						
第2週	行動変容(2):多理論統合モデル						
第3週	心理査定(1):質問紙法						
第4週	心理査定(2):投映法						
第5週	心理査定(3):知能検査						
第6週	心理査定(4):テストバッテリー						
第7週	心理療法(1):心理療法とは何か						
第8週	心理療法(2):精神分析						
第9週	心理療法(3):認知行動療法						
第10週	心理療法(4):クライエント中心療法						
第11週	心理面接(1):基本的態度と諸技法						
第12週	心理面接(2):転移・逆転移/抵抗と行動化						
第13週	心理面接(3):防衛機制						
第14週	医療者の態度						
第15週	医療者の態度						
授業外学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、分からない所があったらそれらを書き出しておくこと。 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和6年度		授 業 計 画 書						
学科・学年	鍼灸学科 1年	科目名	保健科学 I	授業時期	後期	授業時数	30	
実務経験	鍼灸施術院の院長	担当者	藤田 桂子	授業方法	講義	単位数	2	
到達目標	1 ストレッチが実演できた上で、メニュー作成を行い、実践指導ができるようになる。 2 筋の生理的特徴を理解し、各部位にどんな骨格筋があるのか、起始-停止、その部位の特徴の理解を深める。 3 臨床でよく使用する各部位のツボを理解する。			評価方法				
授業概要	筋肉の動きや解剖の知識を理解し、ストレッチ(主にスタティックストレッチ)や穴などで体感しながら、臨床現場に必要な技術の習得を行う。体感することで、基礎知識の理解を更に深めることを目的とする。			実技評価	40%	期末試験	60%	
(100点換算で60点以上で合格)								
教科書等	解剖学	使用器材	パワーポイント、プロジェクター					
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果	
第1週	ストレッチの実際と注意点・方法							
第2週	ストレッチのメニュー作成							
第3週	指導案の打ち合わせ・作成							
第4週	指導案の打ち合わせ・作成							
第5週	指導案の打ち合わせ・作成							
第6週	ストレッチ発表(実技試験)							
第7週	腹筋群(腹直筋・外腹斜筋・内腹斜筋・腹横筋) 起始-停止・作用(P215、217)							
第8週	腹筋群 ストレッチ・穴							
第9週	腹筋群 ストレッチ・穴							
第10週	腰の痛みに対する評価アプローチ法 ストレッチ・穴							
第11週	腰の痛みに対する評価アプローチ法 ストレッチ・穴							
第12週	ローテーターカフ(棘上筋・棘下筋・肩甲下筋・小円筋) 起始-停止・作用(P237)							
第13週	ローテーターカフ ストレッチ・穴							
第14週	肩の痛みに対する評価アプローチ法 ストレッチ・穴							
第15週	肩の痛みに対する評価アプローチ法 ストレッチ・穴							
授業外学習指示等	1. 小テストを行う前には、事前に復習を行うこと。 2. 発表担当者は、事前に予習をし練習をしておくこと。							

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 1年	科目名	解剖学 I	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	星野 英二	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1.人体各部の筋とその起始・停止、支配神経、作用について説明できる。 2.人体を構成する細胞、組織について説明できる。 3.体表(皮膚)の構造・機能を説明できる。			評価方法			
授業概要	人体の構造と機能を学び、鍼灸師として必要な基礎学力を身につけることを目的とする。			期末試験 50% 中間試験 50% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	解剖学 第2版 医歯薬出版	使用器材	パワーポイント				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	[10-IV.上肢] 1.上肢の筋 1)上肢帯の筋 2)上腕の筋						
第2週	3)前腕の筋 4)手の筋						
第3週	2.上肢の運動 3.上肢の局所解剖						
第4週	[10-V.下肢] 1.下肢の筋 1)下肢帯の筋						
第5週	2)大腿の筋 3)下腿の筋 4)足の筋						
第6週	2.下肢の運動 3.下肢の局所解剖 1)大腿前面 2)殿部 3)膝窩 4)下腿の筋区画 5)足部						
第7週	[10-VI.頭頸部] 1.頭頸部の筋 1)頭部の筋 2)頸部の筋 2.頭頸部の体表および局所解剖						
第8週	中間試験						
第9週	第1章 人体の構成 1.細胞 1)細胞の構造 2)細胞分裂と遺伝子						
第10週	2.組織 1)上皮組織						
第11週	2)結合組織						
第12週	3)筋組織						
第13週	4)神経組織						
第14週	3.体表構造 1)皮膚の表面積 2)皮膚の構造 3)皮膚の神経・血管 4)毛 5)爪 6)皮膚腺 4.人体の区分と方向						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和6年度

授業計画書

学科・学年	鍼灸学科 1年	科目名	解剖学Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	星野 英二	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1.循環器系を構成する各器官の構造・機能について説明できる。 2.呼吸器系を構成する各器官の構造・機能について説明できる。			評価方法			
授業概要	人体の構造と機能を学び、鍼灸師として必要な基礎学力を身につけることを目的とする。			期末試験 50% 中間試験 50% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	解剖学 第2版 医歯薬出版	使用器材	パワーポイント				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	第2章 循環器系 1.血管系 1)循環の概要 2)血管の構造 3)吻合 4)門脈						
第2週	2.心臓 1)心臓の位置 2)心膜 3)心臓の壁 4)心房と心室 5)心臓の弁膜 6)刺激伝導系 7)心臓の血管						
第3週	3.動脈系 1)肺循環の動脈系 2)体循環の動脈系 (大動脈、上行大動脈および大動脈弓とその枝、胸大動脈とその枝)						
第4週	2)体循環の動脈系 (腹大動脈とその枝、総腸骨動脈・内腸骨動脈とその枝)						
第5週	2)体循環の動脈系 (頭頸部の動脈、上肢の動脈、下肢の動脈)						
第6週	4.静脈系 1)肺循環の静脈系 2)体循環の静脈系 (頭頸部の静脈、上大静脈に注ぐ枝、下大静脈に注ぐ枝)						
第7週	2)体循環の静脈系 (門脈系、奇静脈系、上肢・下肢の皮静脈)						
第8週	中間試験						
第9週	5.胎児 1)胎児循環の経路 2)胎児循環の切り替わり						
第10週	6.リンパ系 1)リンパ系全体像 2)リンパ管構造 3)全身リンパ本幹						
第11週	4)リンパ系器官(リンパ節、脾臓、胸腺、扁桃と集合リンパ小節)						
第12週	第3章 呼吸器系 1.鼻腔・副鼻腔 1)鼻腔 2)副鼻腔						
第13週	2.咽頭・喉頭 1)咽頭 2)喉頭 3.気管と気管支						
第14週	4.肺 1)肺葉 2)肺区域 3)肺胞 4)胸膜 5)縦隔						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 1年	科目名	生理学 I	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	堀之内 貴一	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	人体の個々の細胞・組織・器官がどのような性質を持ち、どのように働くのかを理解、習得することを目標とする。			評価方法			
授業概要	人体の仕組みを学び、生命現象の機序を理解する。			期末試験100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	生理学-第3版- 東洋療法学校協会	使用器材	教科書及び配布プリント				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	第4章 消化と吸収	消化器系の構造と機能					
第2週	第4章 消化と吸収	口腔内の消化、胃内の消化					
第3週	第4章 消化と吸収	小腸内の消化と吸収					
第4週	第4章 消化と吸収	大腸内の消化と吸収					
第5週	第4章 消化と吸収	直腸・肛門と排便					
第6週	第4章 消化と吸収	肝臓の働き					
第7週	第4章 消化と吸収	摂食の調節					
第8週	第5章 代謝	食品と栄養素					
第9週	第5章 代謝	代謝					
第10週	第5章 代謝	各栄養素の働きと代謝					
第11週	第6章 体温	熱放散					
第12週	第6章 体温	熱産生					
第13週	第6章 体温	体温調節の仕組み①					
第14週	第6章 体温	体温調節の仕組み②					
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	予習・復習は配布プリント、教科書を熟読すること。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 1年	科目名	生理学Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	堀之内 貴一	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	人体の個々の細胞・組織・器官がどのような性質を持ち、どのように働くのかを理解、習得することを目標とする。			評価方法			
授業概要	人体の仕組みを学び、生命現象の機序を理解する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	生理学-第3版- 東洋療法学校協会	使用器材	液晶プロジェクター、教科書及び配布プリント				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	第7章 排泄	腎臓の構造と働き					
第2週	第7章 排泄	尿の組成、腎臓による体液の調整					
第3週	第7章 排泄	腎臓による体液の調整					
第4週	第7章 排泄	蓄尿					
第5週	第7章 排泄	排尿					
第6週	第8章 内分泌	ホルモンの一般特徴					
第7週	第8章 内分泌	視床下部のホルモン					
第8週	第8章 内分泌	下垂体のホルモン					
第9週	第8章 内分泌	甲状腺、副甲状腺のホルモン					
第10週	第8章 内分泌	膵臓、副腎のホルモン					
第11週	第8章 内分泌	副腎皮質のホルモン					
第12週	第8章 内分泌	精巣・卵巣のホルモン、その他のホルモン					
第13週	第9章 生殖・成長と老化	男性・女性の生殖器の構造と機能					
第14週	第9章 生殖・成長と老化	成長 老化					
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	予習・復習は配布プリント、教科書を熟読すること。						

令和6年度

授業計画書

学科・学年	鍼灸学科 1年	科目名	運動学 I	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	星野 英二	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1. 関節と運動の力学について説明できる。 2. 姿勢(重心と重心線)とその異常について説明できる。 3. 身体各部(脊柱・体幹、肩甲帯・肩、肘と前腕、手と手指)の機能について説明できる。			評価方法			
授業概要	鍼灸施術に必要な整形外科的所見等を運動学の観点から理解できるよう解剖学の運動器領域を再確認しながら、運動学の基礎、身体各部の機能を学習する。			期末試験100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	リハビリテーション医学	使用器材	パワーポイント				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	A. 運動学の基礎 1. 関節と運動の力学 1) 関節運動とてこ						
第2週	2) 空間における関節運動						
第3週	2. 姿勢とその異常 1) 重心と重心線 2) 異常姿勢						
第4週	B. 身体各部の機能 1. 脊柱・体幹の機能 1) 脊椎 2) 脊柱						
第5週	3) 椎間円板 4) 脊柱の動きと筋の作用						
第6週	5) 胸郭の動きと呼吸近の作用						
第7週	2. 肩甲帯・肩の機能 1) 肩甲帯・肩とは 2) 肩甲帯・肩の構造						
第8週	3) 肩甲骨の動きと作用する主な筋						
第9週	4) 肩関節の動きと作用する主な筋						
第10週	5) 回旋筋腱板 6) 肩甲上腕リズム						
第11週	3. 肘と前腕の機能 1) 肘と前腕の構造						
第12週	2) 肘と前腕の動きと作用する主な筋 3) 回内・回外運動とADL						
第13週	4. 手と手指の機能 1) 手関節の骨構造と関節 2) 手関節と手の動きと作用する主な筋						
第14週	3) 手のアーチと良肢位 4) 内在筋プラスとマイナス肢位 5) 手の変形						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 1年	科目名	病理学概論	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	堀之内 貴一	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	病気の概念にはじまり、病気について理論面から理解するために病因、循環障害、炎症、腫瘍、免疫異常、アレルギー、先天奇形などの分類枠で、その理論的背景について解説する。			評価方法			
授業概要	教科書、および教科書をベースにしたプリント、スライドを用い講義を行う。			期末試験100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	病理学概論	使用器材	白板、プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	第1章 病理学とはどのような学問か 第2章 疾病についての基本的な考え方 第3章 病因 1. 病因の一般 2. 内因						
第2週	第3章 病因 3. 外因(栄養素の不足と過剰・物理的病因)						
第3週	第3章 病因 3. 外因(化学的病因・生物学的病因) 4. 小児疾患						
第4週	第4章 循環障害 1. ヒトの循環系 充血・うっ血 3. 貧血・虚血 4. 出血						
第5週	第4章 循環障害 5. 血栓症 6. 塞栓症 7. 梗塞 8. 水腫・浮腫・脱水症 9. ショック						
第6週	第5章 退行性病変 1. 萎縮 2. 変性(変性の概念・変性の分類)						
第7週	第5章 退行性変性 2. 変性(加齢と老化・生活習慣病) 3. 壊死と死						
第8週	第6章 進行性病変 1. 肥大と増殖 2. 再生 3. 化生 4. 移殖 5. 創傷治癒・組織内異物の処理						
第9週	第7章 炎症 1. 炎症の一般 2. 炎症の分類						
第10週	第8章 腫瘍 1. 腫瘍の一般						
第11週	第8章 腫瘍 2. 良性腫瘍 3. 悪性腫瘍						
第12週	第9章 免疫異常 1. 液性免疫と細胞性免疫 2. アレルギー						
第13週	第9章 免疫異常 3. 免疫不全 4. 自己免疫異常						
第14週	第10章 先天性異常 1. 先天性異常総論 2. 遺伝性疾患 3. 染色体異常						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、分からない所があればそれらを書き出しておくこと 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日のうちに振り返ること						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 1年	科目名	衛生学・公衆衛生学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	太田 和宏	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1. 公衆衛生の意義を述べるができる。 2. わが国の健康を取り巻く状況について説明できる。 3. 健康に影響を及ぼす因子について説明できる。			評価方法			
授業概要	教科書、および教科書をベースにしたプリント、スライドを用い講義を行う。			中間試験50% 期末試験50% ※出席状況等も加味する場合がある (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	衛生学・公衆衛生学	使用器材	白板、プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	前期期末の解答解説 第5章 産業保健 1. 産業保健の意義 2. 労働衛生行						
第2週	第5章 産業保健 3. 労働環境と健康 4. 労働災害とその対策 5. 業務上疾病とその対策						
第3週	第6章 精神保健 1. 精神保健の意義 2. 精神の健康 3. 精神障害の現状と分類 1)精神障害の現状・2)精神障害の分類・3)主な精神疾患						
第4週	第6章 精神保健 3. 精神障害の現状と分類 4)精神保健教育と患者の転帰 5)精神保健福祉法・6)精神障害者に対する医療及び保護						
第5週	第7章 母子保健						
第6週	第8章 学校保健 1. 学校保健の意義 2. 学校保健とその構造 3. 保健教育 4. 保健管理 5. 学校において予防すべき感染症						
第7週	第8章 学校保健 6. 学齢期の健康状態 復習						
第8週	中間試験						
第9週	第9章 成人・高齢者保健 1. 成人・高齢者保険の意義 2. 加齢と老化 3. 生活習慣病の特徴と対策 1)悪性新生物の予防と対策 2)心臓疾患の予防と対策 3)高血圧・脳卒中の予防と対策						
第10週	第9章 成人・高齢者保健 3. 生活習慣病の特徴と対策 4)その他の生活習慣病の 予防と対策 4. 高齢者の保健福祉対策 5. 介護保険 6. 難病対策の現状						
第11週	第10章 感染症とその対策 1. 感染症の意義と種類 1)感染症の意義2)感染症の分類 (1)真菌、原虫とその感染症 ~ (3)細菌とその感染症						
第12週	第10章 感染症とその対策 2)感染症の分類 (4)ウィルスとその感染症 2. 発生要因 3. 感染症予防の原則 4. 免疫						
第13週	第11章 消毒法 1. 消毒法の一般 2. 消毒の種類 1)物理的方法・2)化学的方法 (1)フェノール類 ~ (10)ガス滅菌						
第14週	第11章 消毒法 2. 消毒法の種類 2)化学的方法 (11)消毒剤使用上の注意 3. 消毒の実際 4. 医療廃棄物						
第15週	第12章 疫学 第13章 保健統計 と復習						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、分からない所があればそれらを書き出しておくこと 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日のうちに振り返ること 3 講義後、分からない所があれば講義後に先生に質問し、できるだけ当日中に理解すること						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 1年	科目名	東洋医学概論 I	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	柗木 明子	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1. 五臓とその機能に関連した領域の説明ができる。 2. 五臓六腑の相互関係の説明ができる 3. 蔵象学説についての説明ができる。			評価方法			
授業概要	東洋医学概論は古代中国の基本的な思想・理論、診察から治療方法までの概要が含まれている。陰陽五行思想や天人合一思想などの思想観、気・血・津液、精と神、臓腑と経絡などの身体観、東洋医学の診察法(四診)、病因と病機、病証などの診断法と疾病観など東洋医学の基本的な知識を教授する。			期末試験100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	新版 東洋医学概論、配布プリント、 鍼灸学【基礎編】	使用器材	PC、液晶プロジェクター、白板				
週							実施結果
第1週	生理と病理 第2節「蔵象」 その① 蔵象学説 臓腑、蔵象学説の要点						
第2週	その② 五臓とその機能に関連した領域 肝系統						
第3週	その② 五臓とその機能に関連した領域 肝系統						
第4週	その④ 五臓とその機能に関連した領域 心系統						
第5週	その④ 五臓とその機能に関連した領域 心系統						
第6週	その⑥ 五臓とその機能に関連した領域 脾系統						
第7週	その⑦ 五臓とその機能に関連した領域 脾系統						
第8週	その⑧ 五臓とその機能に関連した領域 肺系統						
第9週	その⑨ 五臓とその機能に関連した領域 肺系統						
第10週	その⑩ 五臓とその機能に関連した領域 腎系統						
第11週	その⑪ 五臓とその機能に関連した領域 腎系統						
第12週	その⑫ 五臓とその機能に関連した領域 三焦						
第13週	その⑬ 五臓の相互関係						
第14週	その⑭ 六腑の協調関係						
第15週	その⑮ 全身の気機 蔵象のまとめ						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、判らない所があったらそれを書き出しておくこと。 2 復習は授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 1年	科目名	経絡経穴概論 I	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	太田 和宏	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1. 経絡経穴の概要を説明できる。 2. 各経脈の流れ(流注)を説明できる。 3. 各経穴の位置などを説明できる。			評価方法			
授業概要	経絡経穴について主に教科書とスライドを使い説明する。また、授業の冒頭で小テストを行い知識の定着を図る。			中間 + 期末試験 70% 小テスト30% ※出席状況等も加味する場合がある (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	経絡経穴概論	使用器材	プロジェクター・白板・骨模型				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	前期の復習 足の陽明胃経流注と経穴(承泣—頭維:8穴)の部位 演習問題						
第2週	小テスト 足の陽明胃経の経穴(人迎—氣衝:22穴)の部位 演習問題						
第3週	小テスト 足の陽明胃経の経穴(髀關—厲兌:15穴)の部位 演習問題						
第4週	小テスト 足の太陰脾経流注と経穴(隱白—陰陵泉:9穴)の部位 演習問題						
第5週	小テスト 足の太陰脾経の経穴(血海—大包:12穴)の部位 演習問題						
第6週	小テスト 手の少陰心経流注と経穴(極泉—少衝:9穴)の部位 演習問題						
第7週	小テスト 手の太陽小腸経流注と経穴(少沢—陽谷:5穴)の部位 演習問題						
第8週	小テスト 手の太陽小腸経の経穴(養老—顴髎:14穴)の部位 演習問題						
第9週	中間試験						
第10週	小テスト 足の太陽膀胱経流注と経穴(睛明—天注:10穴)の部位 演習問題						
第11週	小テスト 足の太陽膀胱経の経穴(大杼—会陽:25穴)の部位 演習問題						
第12週	小テスト 足の太陽膀胱経の経穴(承扶—秩辺:19穴)の部位 演習問題						
第13週	小テスト 足の太陽膀胱経の経穴(合陽—至陰:13穴)の部位 演習問題						
第14週	小テスト 足の少陰腎経流注と経穴(湧泉—陰谷:10穴)の部位 演習問題						
第15週	小テスト 足の少陰腎経の経穴(横骨—兪府:17穴)の部位 演習問題						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、分からない所があればそれらを書き出しておくこと 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日のうちに振り返ること 3 講義後、分からない所があれば講義後に先生に質問し、できるだけ当日中に理解すること						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 1年	科目名	社会きゆう学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	太田 和宏	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	現代社会において、鍼灸師を取り巻く状況を様々な視点から捉え、鍼灸師が果たすべき役割について考えさせる。また、様々な分野における鍼灸治療の方法を学習することで将来に役立つ知識を身につける。			評価方法			
授業概要	教科書と学校オリジナルのプリントを用いたり、学生同士のディスカッションを交えながら学習する。			期末試験100% ※出席状況等も加味する場合があります (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	社会あはき学	使用器材	液晶プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	第4章 1. 高齢社会におけるあはき師の役割①						
第2週	第4章 1. 高齢社会におけるあはき師の役割②						
第3週	第4章 2. 少子化社会におけるあはき師の役割①						
第4週	第4章 2. 少子化社会におけるあはき師の役割②						
第5週	第4章 3. 女性の健康管理におけるあはき師の役割①						
第6週	第4章 3. 女性の健康管理におけるあはき師の役割②						
第7週	第4章 4. ストレス社会におけるあはき師の役割①						
第8週	第4章 4. ストレス社会におけるあはき師の役割②						
第9週	第4章 5. スポーツ傷害に対するあはき師の役割①						
第10週	第4章 5. スポーツ傷害に対するあはき師の役割②						
第11週	第4章 6. QOLの向上とあはき師の役割						
第12週	第5章 1. 施術所開設に必要な法律知識						
第13週	第5章 2. 経営各論① 業務形態の決定 ～ 施術に伴うリスク管理						
第14週	第5章 3. 経営各論② 財務管理 ～ 保険取り扱いについて						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	講義内容から各自、将来鍼灸師としての治療に携わる状況を想像して自分にできる事、したい事を考えること。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 1年	科目名	基礎はり実技	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院開設(経験年数14年)	担当者	堀之内 貴一	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	鍼の名称や素材などを知り、また基本的な刺鍼方法を学び痛みの少ない刺鍼技術を習得する。			評価方法			
授業概要	刺鍼練習器を用いて実技練習を行う。技術の修得に合わせて自分の足などで人体に刺入する感覚をつかむようにする。			期末試験(実技) 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	はりきゅう実技(基礎編)	使用器材	刺鍼練習器、銀鍼、鍼管、ステンレス鍼				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	ステンレス鍼、片手挿管法の練習						
第2週	ステンレス鍼、片手挿管法の練習						
第3週	ステンレス鍼、直刺で刺鍼練習器Aへ直刺1cm刺入(施撚術)						
第4週	ステンレス鍼、直刺で刺鍼練習器Aへ直刺1cm刺入(施撚術)						
第5週	ステンレス鍼、斜刺45° で刺鍼練習器Aへ直刺1cm刺入(施撚術)						
第6週	ステンレス鍼、斜刺45° で刺鍼練習器Aへ直刺1cm刺入(施撚術)						
第7週	ステンレス鍼、直刺、自分の下肢に切皮練習						
第8週	ステンレス鍼、直刺、自分の下肢に切皮練習						
第9週	ステンレス鍼、斜刺45° 自分の下肢に切皮練習						
第10週	ステンレス鍼、斜刺45° 自分の下肢に切皮練習						
第11週	ステンレス鍼、直刺、ペアで下肢に切皮練習						
第12週	ステンレス鍼、直刺、ペアで下肢に切皮練習						
第13週	ステンレス鍼、斜刺45° ペアで下肢に切皮練習						
第14週	ステンレス鍼、斜刺45° ペアで下肢に切皮練習						
第15週	まとめ 手技の総復習						
授業外学習指示等	講義時間内に出来なかった事は各自自習をするなどして技術向上に努めること。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 1年	科目名	基礎きゆう実技	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	太田和宏	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	1. 身体に対し透熱灸の施灸ができる。 2. 身体に対し知熱灸(八分灸)の施灸ができる。 3. 半米粒大の艾炷をペーパー上で規定個数以上点火出来る。			評価方法			
授業概要	艾、線香などの正しい使い方を身に着け、目的の艾炷を作成できるよう練習を行う。			期末試験100% ※出席状況等も加味する場合があります (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等		使用器材	施灸練習台、艾、線香、ライター、ペーパー類				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	半米粒大の説明、ペーパー上での点火(半米粒大、米粒大)						
第2週	ペーパー上での点火(半米粒大、米粒大)						
第3週	ペーパー上での点火(半米粒大) 自分の下肢に透熱灸(半米粒大～米粒大)(灸点紙あり)の練習						
第4週	ペーパー上での点火(半米粒大) 自分の下肢に透熱灸(半米粒大～米粒大)(灸点紙あり)の練習						
第5週	ペーパー上での点火(半米粒大)、糸状灸の説明と練習 自分の下肢に透熱灸(半米粒大～米粒大)(灸点紙あり)の練習						
第6週	ペーパー上での点火(半米粒大)、ベッドの使い方説明 ペアで透熱灸(灸点紙あり)の練習						
第7週	ペーパー上での点火(半米粒大)、ペアで透熱灸(灸点紙あり)の練習 ペーパーで7分灸、8分灸の練習						
第8週	ペーパー上での点火(半米粒大)、ペアで透熱灸(灸点紙あり)の練習 ペーパーで7分灸、8分灸の練習						
第9週	ペーパー上での点火(半米粒大)、ペーパー及び自分の下肢に7分灸、8分灸の練習						
第10週	ペーパー上での点火(半米粒大)、ペーパー及び自分の下肢に7分灸、8分灸の練習						
第11週	ペーパー上での点火(半米粒大)、ペーパー及び自分の下肢に7分灸、8分灸の練習						
第12週	ペーパー上での点火(半米粒大)、自分の下肢に7分灸、8分灸の練習						
第13週	ペーパー上での点火(半米粒大)、ペアで八分灸(米粒大)の練習						
第14週	ペーパー上での点火(半米粒大)、ペアで八分灸(米粒大)の練習						
第15週	ペーパー上での点火(半米粒大)、ペアで八分灸(米粒大)の練習						
授業外 学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日のうちに振り返ること						